



nutrition support team

臨時増刊号

栄養管理室
Tel: 7120
Fax: 7147



この度、私達『東北大学NST (nutrition support team)』は、本年度の10月をもちまして設立2周年を迎えることができました。今後のさらなる活動の充実と役に立つ集団として自覚を新たにするために、2周年記念のNST通信増刊号を発刊する運びとなりました。日頃、NST活動にご理解いただいています先生方に、NST活動に関して感じる事・期待する事をご寄稿いただきました。一読いただければと思います。

NST2周年記念増刊号へ寄せて



病院長 里見 建

健康の維持や病気の治療において栄養が大切であることは、医療人であれば誰もが考えていることである。しかしながら、このことがあまりにも当たり前のことと思われてきたために、わが国では栄養管理についてのきちんとした教育や組織作りがなおざりにされてきた感がある。満2周年を迎えた本院のNST活動は、多種多様な栄養に関する問題を解決するとともに教育を通してスタッフの意識改革に貢献し、診療科の壁を越えた横断的組織として順調に育っているように思える。今後ますます重要になるこの分野で、全国に向けて情報を発信できる組織として発展することを願っている。

NST2周年記念増刊号へ寄せて



Supervisor 胃腸外科 佐々木 健

私が初期研修を終了し昭和49年に第一外科に入局して以来患者の栄養サポートは重要な項目であるとの認識が強くなりました。当時は中心静脈栄養法が看護婦さんの負担を増やすという理由で病棟では3例までしか出来ないという状況でした。時代が変わり、最近になって様々な栄養評価方法が発達し、病院経営にも役立つことが注目されはじめたのを機会に、2002年6月に院内の有志に呼びかけて栄養評価研修会を開催しました。その後、関係各位と相談し2003年6月26日の科長会議において東北大学医学部附属病院NSTを立ち上げることを報告し、準備を整えて10月1日に全科的組織としてNSTを立ち上げました。ですからNSTの誕生は東北大学病院の誕生と丁度同じになります。NST通信はその後直ちに定期的発行しつづけて、多くの皆様にNST活動内容を伝える大切な役目を果たしてきました。今回2周年増刊号を迎える事はNST活動に参加している方々のご努力と周囲の皆様の強いご支援の賜物と熱く感謝いたします。今後の更なる発展を期待します。

『NST』2周年の思い



NSTディレクター 栄養管理室 室長 南 文子

近年、栄養管理を適切に実施する事の重要性が再認識されてきましたが、ではどうしたら良いのかと医師を始め多くの医療スタッフが暗中模索の中、NSTをスタートいたしました。NSTの取組は患者様の栄養サポートですが、なにより領域を超えたチーム医療が出来た事です。日常顔を合わせる事なかった医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・検査技師・医事課の様々なスタッフが力を合わせて頑張っている事です。これからも全科的チーム医療の輪を広げて行きたいと思っております。

NSTに期待する



栄養部 部長 後藤 順一

「医食同源」、「栄養」という言葉があるように、我が国では古くより病気との関連から食(栄養)が重要視されてきた。近代医学が導入されてからは、関心が薄れ、例えば切れ味の鋭い新薬に頼るといったような傾向にあったが、生命を保ち健康を維持するという立場に立ち、食(栄養)が再び注目されてきたのは大変にうれしいことである。患者さまのQOLを第一に考え、はやく健康を回復し、社会に復帰されるように努力した結果が、経営改善にも効果があれば、こんな素晴らしいことはない。病院内医療スタッフ共通の活動としてもっともっと定着することを期待している。

NST2周年記念発行へ一言



看護部 部長 高瀬 千工

NST活動状況も2年目を迎え、日頃の活動にご苦労様でしたという感謝の言葉と今後医療従事者に知識を普及し活動することに期待しております。従来の栄養指導は、点でしか捉えられておりましたが、NST活動がチーム編成でより縦断的・横断的に患者様一人ひとりについて指導・実施できる体制が医療従事者の縦断的意識を解消し、充実した医療を提供できるという喜びを実感していると思います。何よりも患者様に回復の援助ができる喜びではないでしょうか。来年度の医療制度構造改革案が提出され益々医療費抑制策の中で、NST活動を通して国民に安心した医療を提供し、満足していただける病院づくりにこれからも活躍を期待したいと思います。

NSTの目標はNSTがなくなること



Supervisor

分子代謝病学分野(糖尿病代謝科) 岡 芳知

1年ほど前だったが、彼なくしては東北大病院NSTは語れないというほどの貢献をしてくれている宮田剛先生から、「NSTの目標は」という趣旨のアンケート調査があった。適切な栄養管理を行って早期臨床を回す、とでも書くのがよかったのかもしれないが、少しひねって「NSTが必要なくなること」と返事をした。思いがけず、宮田先生から返事が来た。「私も同意」。患者様の栄養状態をもっとよくする方法があるのにはいいない、知らないということがない、すなわち、この病院の患者ケアに当たる者すべてがNSTと同じ知識を持ち実践できるようになることが望ましい。これすなわち、NSTにお呼びがかからなくなる。こと、といっても、今はまだ、「御用はありませんか?」という段階でしょうか。ご発展を期待する。

NST活動に大いに期待



検査部 部長 鈴木 満夫

近年、SARSや鳥インフルエンザ、MRSAなど、さまざまな感染症の問題が起り、いまや感染症対策は世界中のすべての医療関連施設における最重要課題となっています。感染症対策の基本は感染源の除去を徹底させることにありますが、そのなかでも宿主であるヒトの感染に対する抵抗力、いわゆる感染防御能をいかに高めていくことができるかがキーポイントとなります。栄養はまさに感染防御能のベースとなるものであり、その意味からもNST:栄養サポートチームが果たす役割は極めて大きいものがあります。今後、当院の感染管理においてもNSTの活動に大いに期待しています。

2周年記念行事の案内

東北大学病院NST2周年記念講演会

日時:平成18年2月10日(金)午後5時30分

場所:東北大学医学部 臨床講義棟大講堂

演題:「栄養管理のヒットフォーラム~NSTスタッフの果たす役割~」

演者:東北大学医学部附属病院NSTチーム 大村 能二 先生